

令和 7 年度 定期作況報告

〈令和 7 年 11 月 20 日現在〉

地方独立行政法人北海道立総合研究機構

農業研究本部 道南農業試験場

1. 気象経過

1) 融雪期以降の経過

根雪始は平年に比べ 3 日早く、根雪終は 6 日早く、積雪期間は平年より 3 日短かった。また、耕鋤始は 1 日遅かった。晩霜は 20 日早く、本年の初霜は 10 月 25 日で平年より 2 日遅かった。無霜期間は 23 日長かった（表 1 上）。

4 月：平均気温は平年並、最高気温は 1.2℃低く、最低気温は 1.8℃高かった。降水量は平年より 20.9mm 多く、平年の 131%であった。日照時間は 89.4 時間少なく、同 53%であった（表 2）。

5 月：平均気温、最高気温、最低気温ともに平年並であった。降水量は平年より 1.6mm 多く、平年の 102%であった。日照時間は 27.9 時間少なく、同 87%であった。

6 月：平均気温は 2.1℃、最高気温は 2.7℃、最低気温は 1.7℃高かった。降水量は平年より 33.7mm 少なく、平年の 71%であった。日照時間は 26.4 時間多く、同 116%であった。

7 月：平均気温は 2.7℃、最高気温は 3.6℃、最低気温は 2.4℃高かった。降水量は平年より 34.1mm 少なく、平年の 65%であった。日照時間は 14.8 時間多く、同 111%であった。

8 月：平均気温は 1.5℃、最高気温は 2.3℃高く、最低気温は平年並であった。降水量は平年より 121.4mm 多く、平年の 177%であった。日照時間は 48.0 時間多く、同 135%であった。

9 月：平均気温は 1.4℃、最高気温は 1.7℃、最低気温は 1.1℃高かった。降水量は平年より 122.0mm 多く、平年の 207%であった。日照時間は 22.0 時間多く、同 113%であった。

10 月：平均気温、最高気温、最低気温ともに平年並であった。降水量は平年より 68.2mm 少なく、平年の 36%であった。日照時間は 19.9 時間少なく、同 88%であった。

平均気温：月別では 4、5、10 月は平年並で、6～9 月は高かった。なお旬別では 4 月上旬、5 月上旬、10 月中旬が平年並で、4 月下旬、5 月下旬、10 月下旬は平年より低く、他の旬は全て平年より高かった。農耕期間である 5～9 月の日平均気温の積算値は 3080℃であった（平年差+230℃、平年比 108%、表 1 下）。

降水量： 5 月は平年並で、6、7、10 月は少なく、4、8、9 月は多かった。8 月 19～20 日は合計 159mm、9 月 13 日に 94.5mm の集中的な降雨があった。5～9 月の降水量の積算は 732mm であった（平年差+177mm、平年比 132%）。

日照時間： 4、5、10 月は平年より少なく、6～9 月は平年より多かった。5～9 月の日照時間の積算は 905 時間であった（平年差+83 時間、平年比 110%）。

表 1. 季節表および農耕期間の平均気温、降水量、日照時間の積算値

項目 年次	前年		本年							
	初 霜 (年月日)	根雪始 (年月日)	根雪終 (年月日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年月日)	耕鋤始 (年月日)	晩 霜 (年月日)	初 霜 (年月日)	無霜期間 (日)	降雪始 (年月日)
本年	R6.10.21	R6.12.11	R7.3.1	81	R7.3.31	R7.4.09	R7.4.06	R7.10.25	202	R7.11.10
平年	10.23	12.14	3.7	84	4.16	4.08	4.26	10.23	179	11.11
比較	▲ 2	▲ 3	▲ 6	▲ 3	▲ 16	1	▲ 20	2	23	▲ 1

項目 期間		積算気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (時間)
5月上旬 ～ 9月下旬	本年	3080	732	905
	平年	2850	554	822
	比較	230	177	83
	(%)	108	132	110

項目 期間		積算気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (時間)
4月上旬 ～ 10月下旬	本年	3679	859	1150
	平年	3458	729	1176
	比較	221	130	▲ 26
	(%)	106	118	98

注 1) 農耕期間の積算値は北斗市のアメダス、耕鋤始は道南農試により、それ以外は函館地方気象台（函館市美原）の観測値である。初霜、晩霜は、函館地方気象台の気象データからの推定値である（最低気温が 1.3℃以下、最低気温起時に雨天の場合は除く）

注 2) 平年値は前 10 か年の平均値である。ただし、晩霜については、令和元年(2019 年)までは、函館地方気象台の観測値であり、令和 2 年(2020 年)以降は推定値、初霜については、令和 6 年(2024 年)までは、函館地方気象台の観測 値であり、令和 7 年(2025 年)は推定値である。

注 3) 表中▲は「早」または「少」を示す。

表 2. 気象表

月	旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)				日照時間(hr)			
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	%	本年	平年	比較	%
4	上	6.0	5.7	0.3	10.4	11.0	▲ 0.6	1.9	0.4	1.5	3.0	16.1	▲ 13.1	19	31.8	61.1	▲ 29.3	52
	中	9.0	8.0	1.0	13.2	13.3	▲ 0.1	5.2	2.6	2.6	48.5	33.0	15.5	147	31.1	59.8	▲ 28.7	52
	下	8.7	9.7	▲ 1.0	12.4	15.4	▲ 3.0	5.2	3.8	1.4	36.5	18.0	18.5	203	37.2	68.6	▲ 31.4	54
5	上	11.5	11.5	0.0	16.4	17.1	▲ 0.7	6.6	5.8	0.8	36.0	20.8	15.2	173	63.1	67.9	▲ 4.8	93
	中	13.8	13.0	0.8	19.8	18.4	1.4	8.0	7.8	0.2	10.0	25.7	▲ 15.7	39	54.5	67.3	▲ 12.8	81
	下	13.5	14.8	▲ 1.3	18.5	20.2	▲ 1.7	9.1	9.8	▲ 0.7	24.5	22.4	2.1	109	66.3	76.6	▲ 10.3	87
6	上	16.5	15.6	0.9	22.1	20.7	1.4	11.6	10.8	0.8	6.0	33.0	▲ 27.0	18	67.6	65.5	2.1	103
	中	19.1	16.9	2.2	24.4	21.6	2.8	14.7	12.9	1.8	24.5	24.9	▲ 0.4	98	73.9	55.2	18.7	134
	下	21.4	18.2	3.2	26.4	22.5	3.9	17.2	14.7	2.5	50.5	56.8	▲ 6.3	89	54.1	48.5	5.6	112
7	上	23.3	19.6	3.7	28.1	23.8	4.3	19.5	16.3	3.2	59.0	36.8	22.2	160	57.5	45.2	12.3	127
	中	22.9	21.4	1.5	28.2	25.6	2.6	19.5	18.1	1.4	4.5	21.2	▲ 16.7	21	46.6	43.0	3.6	108
	下	26.0	23.1	2.9	31.3	27.4	3.9	22.4	19.7	2.7	1.0	40.6	▲ 39.6	2	48.3	49.4	▲ 1.1	98
8	上	24.8	23.5	1.3	29.7	27.8	1.9	20.9	20.2	0.7	50.5	38.6	11.9	131	54.4	45.7	8.7	119
	中	24.2	22.1	2.1	29.4	26.0	3.4	19.0	19.0	0.0	185.5	57.6	127.9	322	72.4	41.2	31.2	176
	下	23.4	22.3	1.1	28.3	26.6	1.7	18.7	18.5	0.2	43.0	61.4	▲ 18.4	70	59.1	51.0	8.1	116
9	上	22.8	21.1	1.7	27.2	25.8	1.4	18.3	16.6	1.7	80.0	31.1	48.9	257	55.4	58.2	▲ 2.8	95
	中	20.5	18.9	1.6	26.0	23.9	2.1	15.1	14.4	0.7	131.5	44.3	87.2	297	64.7	51.1	13.6	127
	下	18.0	17.0	1.0	24.0	22.3	1.7	12.8	11.9	0.9	25.0	39.1	▲ 14.1	64	67.0	55.8	11.2	120
10	上	16.6	14.9	1.7	22.3	20.0	2.3	11.0	9.7	1.3	1.0	47.2	▲ 46.2	2	61.9	49.7	12.2	125
	中	11.7	11.6	0.1	16.8	17.5	▲ 0.7	6.4	6.0	0.4	16.5	25.7	▲ 9.2	64	36.9	58.5	▲ 21.6	63
	下	7.2	9.9	▲ 2.7	12.8	15.3	▲ 2.5	1.7	4.6	▲ 2.9	21.5	34.3	▲ 12.8	63	46.3	56.8	▲ 10.5	82
4月		7.9	7.8	0.1	12.0	13.2	-1.2	4.1	2.3	1.8	88.0	67.1	20.9	131	100.1	189.5	▲ 89.4	53
5月		13.0	13.2	-0.2	18.2	18.6	-0.4	7.9	7.9	0.0	70.5	68.9	1.6	102	183.9	211.8	▲ 27.9	87
6月		19.0	16.9	2.1	24.3	21.6	2.7	14.5	12.8	1.7	81.0	114.7	▲ 33.7	71	195.6	169.2	26.4	116
7月		24.1	21.4	2.7	29.3	25.7	3.6	20.5	18.1	2.4	64.5	98.6	▲ 34.1	65	152.4	137.6	14.8	111
8月		24.1	22.6	1.5	29.1	26.8	2.3	19.5	19.2	0.3	279.0	157.6	121.4	177	185.9	137.9	48.0	135
9月		20.4	19.0	1.4	25.7	24.0	1.7	15.4	14.3	1.1	236.5	114.5	122.0	207	187.1	165.1	22.0	113
10月		11.7	12.1	-0.4	17.2	17.5	-0.3	6.2	6.7	-0.5	39.0	107.2	▲ 68.2	36	145.1	165.0	▲ 19.9	88

注 1) 観測値は北斗市のアメダスデータを使用、平年値は前 10 か年による。

注 2) 表中▲印は「低」または「少」を示す。

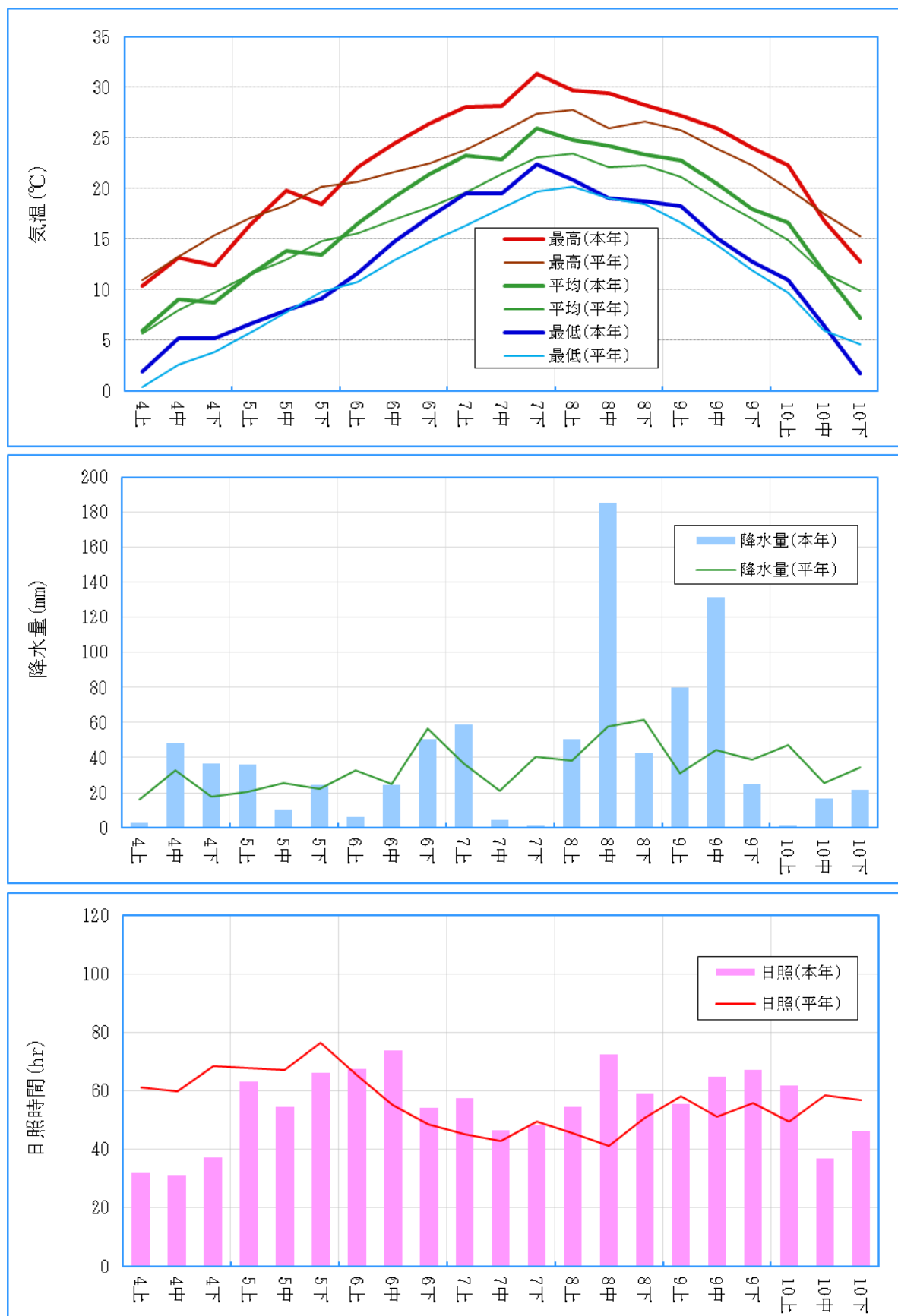


図1 気温、降水量及び日照時間の平年との比較(令和7年、北斗市)

2. 当場の作況（水稻）

作況：不良

事由：播種は平年より1日遅い4月23日に行った。出芽までの日数は平年並で、出芽期は4月28日であった。育苗期間中、4月下旬はやや低温で寡照、5月上旬は平年並の気温で寡照、5月中旬はやや高温で寡照であり、全体として平年並の気温で寡照であった。

移植は平年並の5月20日に行った。移植時の苗の形質において、草丈は「ふっくりんこ」は平年より短く、「ななつぼし」は長かった。葉数は2品種ともに平年より多く、茎数は「ふっくりんこ」は多く、「ななつぼし」は少なかった。地上部乾物重は2品種ともに平年を上回った。苗の充実度を表す地上部乾物重/草丈の値も2品種ともに平年を上回っていた。

5月下旬は低温で寡照に推移し、苗の活着および生育は遅れ、強風による葉枯れが見られた。6月上旬～中旬は高温で多照に推移し、生育はやや回復した。6月20日時点では、草丈は「ふっくりんこ」でやや低く、「ななつぼし」は平年並であった。葉数は「ふっくりんこ」で平年よりやや少なく、「ななつぼし」は平年並であった。茎数は2品種ともに少なかった。6月下旬はかなり高温であったため、生育は進み、幼穂形成期は「ふっくりんこ」は平年より3日早く、「ななつぼし」は1日早かった。また幼穂形成期後も7月上旬、中旬ともかなり高温であったため、生育はさらに進み、止葉期は「ふっくりんこ」「ななつぼし」とともに、平年より5日早かった。出穂期は「ふっくりんこ」は平年より9日早く、「ななつぼし」は8日早く、過去16年間で最も早い出穂期であった。止葉葉数は2品種ともに少なかった。稈長は平年より短く、穂長は平年より長く、穂数は2品種ともに平年の82%で少なかった。

7月下旬～8月下旬の1か月間は、高温に推移したため、登熟は早く進み、登熟日数は「ふっくりんこ」で平年より8日短く、「ななつぼし」で6日短かった。成熟期は「ふっくりんこ」で平年より17日、「ななつぼし」で13日早く、過去16年間で最も早い成熟期であった。倒伏やなびきは見られなかった。2品種ともに穂数は少なく、一穂粒数も2品種ともにやや少なかったため、 m^2 当粒数はかなり少なかった。稔実歩合は2品種ともに平年よりやや高かったが、 m^2 当粒数がかなり少なかったため、 m^2 当稔実粒数は2品種ともに平年の80%とかなり少なかった。登熟歩合は平年より「ふっくりんこ」で3.2ポイント、「ななつぼし」で0.4ポイントそれぞれ高かった。「ふっくりんこ」は、精玄米千粒重は平年より1.6g重く、屑米歩合は平年より2.2ポイント高く、精玄米重は51.9kg/aで平年に比べて91%と少なかった。「ななつぼし」は、精玄米千粒重は平年より1.1g重く、屑米歩合は平年より1.4ポイント低く、精玄米重は57.9kg/aで平年に比べて97%とやや少なかった。平年に対する精玄米重比の2品種平均値は94%であった。2品種ともに精玄米千粒重は平年より重かったが、 m^2 当稔実粒数が平年の80%と少なかったため、精玄米重が少なくなった。

なお、等級検査は2品種ともに1等で、平年より等級は高かった（表3）。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

注)本作況は、道南農業試験場における平年値に対する水稻の生育良否に基づいたものであり、渡島・檜山を代表するものではありません。

表3 水稻の生育（道南農試）

項目		品種名 ふっくりんこ			品種名 ななつぼし		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
生育期節	播種期 (月日)	4.23	4.22	1	4.23	4.22	1
	出芽期 (月日)	4.28	4.27	1	4.28	4.27	1
	移植期 (月日)	5.20	5.20	0	5.20	5.20	0
	幼穂形成期 (月日)	6.27	6.30	▲ 3	6.25	6.26	▲ 1
	止葉期 (月日)	7.11	7.16	▲ 5	7.09	7.14	▲ 5
	出穂期 (月日)	7.16	7.25	▲ 9	7.15	7.23	▲ 8
	成熟期 (月日)	8.27	9.13	▲ 17	8.24	9.06	▲ 13
	穂揃日数 (日)	3	6	▲ 3	3	6	▲ 3
	登熟日数 (日)	42	50	▲ 8	40	46	▲ 6
	生育日数 (日)	126	144	▲ 18	123	137	▲ 14
移植時	草丈 (cm)	13.3	14.5	▲ 1.2	16.0	13.9	2.1
	葉数 (枚)	3.7	3.4	0.3	3.6	3.4	0.2
	茎数 (本/個体)	1.73	1.30	0.43	1.00	1.11	▲ 0.11
	地上部乾物重 (g/100本)	3.22	2.94	0.28	3.64	2.91	0.73
	地上部乾物重/草丈	0.24	0.20	0.04	0.23	0.21	0.02
本田生育	草丈 (cm)	6月20日 32.8	34.4	▲ 1.6	35.8	35.1	0.7
		7月20日 88.9	79.2	9.7	88.9	82.5	6.4
		8月20日 88.9	92.0	▲ 3.1	89.0	92.7	▲ 3.7
	葉数 (枚)	6月20日 7.5	7.8	▲ 0.3	7.7	7.9	▲ 0.2
		7月20日 9.9	10.5	▲ 0.6	10.0	10.5	▲ 0.6
		8月20日 9.9	10.6	▲ 0.7	10.0	10.6	▲ 0.7
	止葉葉数 (枚)	9.9	10.6	▲ 0.7	10.0	10.6	▲ 0.7
	茎数 (本/㎡)	6月20日 519	566	▲ 47	443	501	▲ 58
		7月20日 585	792	▲ 207	527	694	▲ 167
		8月20日 580	712	▲ 132	534	647	▲ 113
成熟期	稈長 (cm)	73.3	77.9	▲ 4.6	70.3	76.2	▲ 5.9
	穂長 (cm)	18.2	16.2	2.0	18.0	16.4	1.6
	穂数 (本/㎡)	580	707	▲ 127	529	643	▲ 114
収量構成要素	一穂粒数 (粒)	46.2	47.9	▲ 1.7	49.1	51.6	▲ 2.5
	㎡当粒数 (×1000)	26.8	33.9	▲ 7.1	26.0	33.2	▲ 7.2
	稈実歩合 (%)	94.9	93.7	1.2	96.6	94.3	2.3
	㎡当稈実粒数 (×1000)	25.4	31.8	▲ 6.4	25.1	31.3	▲ 6.2
	同上平年比	80	100	▲ 20	80	100	▲ 20
	登熟歩合 (%)	83.5	80.3	3.2	79.2	78.8	0.4
	粒摺歩合 (%)	69.2	73.9	▲ 4.7	75.8	76.7	▲ 0.9
	屑米重 (kg/a)	6.9	6.1	0.8	2.9	4.0	▲ 1.1
	屑米歩合 (%)	11.7	9.5	2.2	4.8	6.2	▲ 1.4
	精玄米千粒重 (g)	24.1	22.5	1.6	22.6	21.5	1.1
収量	わら重 (kg/a)	52.7	65.6	▲ 12.9	53.4	65.8	▲ 12.4
	精粒重 (kg/a)	75.0	77.6	▲ 2.6	76.4	77.9	▲ 1.5
	精玄米重 (kg/a)	51.9	57.3	▲ 5.4	57.9	59.7	▲ 1.8
	収量平年比 (%)	91	100	▲ 9	97	100	▲ 3
	玄米検査等級 (等)	1	2上	—	1	1下	—

注1) 平年値は前7年間の令和4年(2022年、最豊年)、平成30年(2018年、最凶年)を除く5年の平均値を用いた。

注2) 苗は中苗紙筒、栽植密度は25.3株/㎡ (33cm×12cm)、1株3本植え。

注3) 本田にはN、P₂O₅、K₂O成分をそれぞれ7.5、9.1、6.5(kg/10a)施用した。

注4) 篩目は1.90mmを使用し、精玄米重、千粒重とも水分15.0%に補正した。

注5) 登熟歩合は比重1.06の塩水で調査した。

注6) 比較の▲印は「減」または「早」を示す。

3. 当場の各月ごとの作況（水稻）

5月20日：やや良

事 由：播種は平年より1日遅い4月23日に行った。出芽までの日数は平年並で、出芽期は4月28日であった。育苗期間中、4月下旬はやや低温で寡照、5月上旬は平年並の気温で寡照、5月中旬はやや高温で寡照であり、全体として平年並の気温で寡照であった。移植は平年並の5月20日に行った。移植時の苗の形質において、草丈は「ふっくりんこ」は平年より短く、「ななつぼし」は長かった。葉数は2品種ともに平年より多く、茎数は「ふっくりんこ」は多く、「ななつぼし」は少なかった。地上部乾物重は2品種ともに平年を上回った。苗の充実度を表す地上部乾物重/草丈の値も2品種ともに平年を上回っていた。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

6月20日：やや不良

事 由：5月下旬は低温で寡照に推移し、苗の活着および生育は遅れ、強風による葉枯れが見られた。6月上旬～中旬は高温で多照に推移し、生育はやや回復したが、草丈は「ふっくりんこ」でやや低く、「ななつぼし」は平年並であった。葉数は「ふっくりんこ」で平年よりやや少なく、「ななつぼし」は平年並であった。茎数は2品種ともに少なかった。

以上のことから、現在の作況は「やや不良」である。

7月20日：やや不良

事 由：6月下旬はかなり高温であったため、生育は進み、幼穂形成期は「ふっくりんこ」は平年より3日早く、「ななつぼし」は1日早かった。また幼穂形成期後も7月上旬、中旬ともかなり高温であったため、生育はさらに進み、止葉期は「ふっくりんこ」「ななつぼし」とともに、平年より5日早かった。本年は既に出穂期に達し、「ふっくりんこ」は平年より9日早く、「ななつぼし」は8日早く、過去16年間で最も早い出穂期であった。葉数は平年より少なく、草丈は平年より長く、茎数は平年よりかなり少ない。生育がかなり早く進んでいることを勘案し、茎数を8月20日の平年値や成熟期の穂数と比較した場合においても、下回っている。

以上のことから、現在の作況は「やや不良」である。

8月20日：やや不良

事 由：7月下旬～8月中旬は、高温に推移したため、登熟は進み、籾の黄熟化が進んだ。そのため本田生育調査と合わせて、稈長等の成熟期調査も行った。止葉葉数は少なく、草丈は短かった。茎数は「ふっくりんこ」で平年の82%、「ななつぼし」は平年の83%と少なかった。また稈長は平年より短く、穂長は平年より長く、穂数は「ふっくりんこ」「ななつぼし」とともに平年の82%で少なかった。

以上のことから、現在の作況は「やや不良」である。

9月20日：不良

事 由：8月下旬は高温に推移したため、登熟は早く進み、登熟日数は「ふっくりんこ」で平年より8日短く、「ななつぼし」で6日短かった。成熟期は「ふっくりんこ」で平年より17日、「ななつぼし」で13日早かった。倒伏やなびきは見られなかった。「ふっくりんこ」「ななつぼし」とともに穂数は少なく、一穂粒数は「ふっくりんこ」「ななつぼし」ともにやや少なかったため、 m^2 当粒数はかなり少なかった。稔実歩合は「ふっくりんこ」「ななつぼし」ともに平年よりやや高かったが、 m^2 当粒数がかなり少なかったため、 m^2 当稔実粒数は「ふっくりんこ」「ななつぼし」ともに平年の80%とかなり少なかった。登熟歩合は平年より「ふっくりんこ」で3.2ポイント、「ななつぼし」で0.4ポイントそれぞれ高かった。

以上のことから、現在の作況は「不良」である。

10月20日：不良

事 由：「ふっくりんこ」は、精玄米千粒重は平年より1.6g重く、屑米歩合は平年より2.2ポイント高く、精玄米重は51.9kg/aで平年に比べて91%と少なかった。「ななつぼし」は、精玄米千粒重は平年より1.1g重く、屑米歩合は平年より1.4ポイント低く、精玄米重は57.9kg/aで平年に比べて97%とやや少なかった。平年に対する精玄米重比の2品種平均値は94%であった。2品種ともに精玄米千粒重は平年より重かったが、 m^2 当稔実粒数が平年の80%と少なかったため、精玄米重が少なくなった。

以上のことから、現在の作況は「不良」である。